

母子の健康を守る取り組みにも目を向けましょう

◎国際ロータリー第2590地区 ガバナー 金子 大

4月——日本では入学シーズンとなり、初々しい新入生たちとそのお母さんたちを見かける機会も増えます。しかし世界に目を向けてみると、毎年5歳未満で命を落とす子どもたちは、推定590万人にもものぼります。その原因は栄養失調、適切な医療や衛生設備の欠如などが挙げられます。これだけの子どもたちが、日本で言えばランドセルを背負うことなく命を落としているのです。

すべての母子が質の高い医療を受けられるよう、そして出産で命を落とす母親がいなくなるよう、ロータリーが取り組んでいることを、「母子の健康月間」を通じて皆さんにもう一度知っていただきたいと思います。

§

R財団では以下の形で、母子の健康の改善を実現するべく活動を行っています。

1. 5歳未満の幼児の死亡率と罹患率の削減
 2. 妊婦の死亡率と罹患率の削減
 3. より多くの母子に対する基本的な医療サービスの提供、地域社会の医療・保険関係のリーダーと医療提供者を対象とした母子の健康に関する研修
 4. 母子の健康に関連した仕事で活躍していくことを目指す専門職業人のための奨学金支援
- これら4つの項目を提言しています。

§

世界における具体的な活動例を一部ご紹介します。

出産前ケアの移動クリニック: 西半球で母子の死亡率が最も高いハイチで、医療ボランティアと助産師が僻地に住む母と子どもに医療ケアを提供できるよう、医療機器を搭載したジープを寄贈。

可動式がん検診支援: インドにおいて、可動式のがん検診機器一式の提供と、認識向上を目的とした研修の実施。

産科ろう孔の治療: 自宅出産が主流のナイジェリアで長時間の出産による母子の死亡率を減らすため、ナイジェ



リアとドイツの地区・クラブが立ち上げた、300万ドルをかけた5年間の試験的プロジェクトは、2005年以来1500人の治療を行ってきました。このプロジェクトを立ち上げたドイツのPG Robert Zinser氏は、「母親が強く健康であれば、その家族も強く健康になり、貧困と飢餓も和らぎます」と語っています。

§

当地区でも横浜金沢RCがモンゴルのRCと実施する「Happy Birth & Happy Baby project」を本年度のGGプロジェクトとして現在申請中です。これは、モンゴルの新生児の死亡率が11.1人/1000人（日本は0.5人/1000人）と非常に高い原因が、モンゴルの助産師が新生児蘇生術を習得していないことにあるのではないかとの調査結果を受け、まずは全国21県の各病院より数名の助産師を集め、新生児蘇生法技術研修を行い、彼・彼女等がインストラクターとして各病院で伝達研修を行うことで技術を広め、子供の命を救う救急体制を強化することを目指すものです。

予防ができることなら万全の支援体制を提供したいと、私たちロータリアンは願っています。1人でも多くの母と子どもの命を救うことができることを目指し、共に活動しようではありませんか。